

ポイント委員会報告

ポイント委員会は、2005年4月より以下の方針で大きく変わった新メンバーによる活動を開始した。

- ・2005年度は、冒険をせず、2004年度のやり方を踏襲する。(それを踏まえて、2006年度以降改善を検討する。)
- ・イベントの進め方等に関して極力マニュアル化を進める。

具体的には、以下のイベントを実施、または実施予定である。

1. PMBOKセミナー
【日程・場所】10月8(土)～9日(日)名古屋商工会議所
【ポイント】16時間 4ポイント
【共催】 ITC東海
2. 2005年度第1回例会・講演会
【日程・場所】11月12(土)名鉄会館
【ポイント】4時間 1ポイント
3. 2005年度総会第2回例会・講演会
【日程・場所】3月25(土)名古屋港湾会館
【ポイント】4時間 1ポイント
【講演会内容】新プロセスガイドライン 研修
また、その他にも、事務局が主催し現在開催中の合同自主勉強会等の運営にも協力している。



PMBOKセミナー

(ITC中部ポイント委員長 磯部秀敏)

広報委員会報告

広報委員会メンバー: 日比政博委員長、伊藤実副委員長、熊澤彰人副委員長、和澤功委員(副理事長)、森田正博委員、池山昭夫委員、井上新委員、小笠原直樹委員、鳥内浩一委員、吉田信人委員、野内正義委員、勝野直樹委員、織田稔委員、佐藤裕司委員、竹内肇委員

2005年度の広報委員会は下記の活動を実施しました。

1. 広報委員会の開催(2005/4/21、5/19、6/9、7/19、9/8、10/17、11/15、12/20、2006/2/9、3/14の計10回)
・原則毎月1回開催し、活動計画の具体的な内容の検討を実施
2. ITC中部広報誌「架け橋」(年2回発行)の発行
・第5号:2005年9月発行
・第6号:2006年3月発行(今回)

3. ビジネスウェブ21の運営実施(2005/6/8～6/10)
・IT経営応援隊ブースの運営
・ミニセミナー(IT経営事例発表)の開催
4. 広島ITC共同組合との交流会の実施(2005/10/29～10/30)
・広島ITC協同組合「第3回通常総会記念講演会・交流会」に広報委員8名が参加
・ITC中部で2件(和澤氏、池山氏)セミナー発表
(ITC中部広報委員長 日比政博)

事務局便り

平成17年度は、会員各位のご協力にて色々なイベントを無事に済ませることができました。改めて事務局から御礼を申し上げます。今年度も11月度の例会、3月の総会を軸に、大小のセミナー・会員相互の交流イベントを開催してまいります。会員の皆様方の積極的なご支援、ご協力をお願い致します。

また、知識ポイント獲得や、ITCスキルアップのための行事などのアイデア、ご提案がありましたら事務局へご連絡を戴けますようお願いいたします。

現在、ITC中部の諸活動をささえている委員会は2つありますが、和澤副理事長の記事にありますようにもうひとつ増える予定です。いずれもボランティア活動とは、なりますが、この委員会に参加してみたい、ITC中部会員と積極的にコンタクトを希望される

方は、是非とも立候補を戴けますようご連絡をお待ちします。

- ① 広報委員会『自治体・企業へのPR活動と渉外を担当します。各方面にコネクションをお持ちの方、またコネクションを持ちたい方のご参加をお待ちします』
- ② ポイント事業・会員交流委員会『皆さんの資格維持に必要な知識ポイントの獲得支援と交流の場づくりを担当しております』
- ③ ITC中部事務局『事務全般・会計・外部との連絡窓口・ホームページ・メールリストの運営等を担当します』
- ④ 企画委員会(仮称)『和澤副理事長の挨拶を参照下さい』
(ITC中部事務局 高間正俊)

架け橋

和澤副理事長の挨拶

—ITC制度/ITC中部のさらなる発展のために—
平素はITC中部のために、ご尽力いただき、誠にありがとうございます。おかげさまでITC中部も発展し、会員数が現在約260名の大きなNPOとなりました。

中国の工場視察(元氣な中国企業)

昨年10月、中国研究をしている中小企業診断士の皆さんと、中国華南地区の工場視察に行きました。視察先は日系企業が2社(広州・東莞)と、日系企業を得意先とする中国系企業の1社(深セン)でした。中国の華南地区は経済特区(深セン)があることもあり、建築ラッシュの高層アパート郡や砂埃たつ道路工事などが目に付き、また工場は熱意に満ちた人々が(低賃金で、日本から持ち込んだマネージメント技法(トヨタ生産方式など)を積極的に展開していました。コストはもとより品質・納期についても、徐々に力をつけつつあるようです。このような中国企業とグローバルな競争下にさらされているのが、日本の中小企業かと、改めてITによる中小企業の高度化(元氣にすること)の重要性を認識した次第です。

ITC技術や認定・更新制度の見直し/改訂

ITC制度も発足から丸5年が経過し、世の中の技術動向や、5年間の改善項目を織り込む形で、CBK(知識体系)・ITCプロセス・ガイドラインなどが全面改訂されました。また、2006年4月からはポイント制度も大幅改訂されます。

現在、ITCについての認知度や活躍度は、残念ながら今ひとつ低調であるといわざるを得ません。この時期に、さらなるITC制度の定着とITC/ITC中部の活性化・発展を目指すうえで、ITC制度の本来の主旨を再認識することが重要かと考えます。

ITC制度の目指すところ

ITC制度は、今までの日本の経済を支えてきた中小企業を、IT活用を正しく促進し、再びグローバルな競争力を持った企業にすること=『中小企業を元氣にすること』を目指したものであり、これをしっかり認識しなければいけません。

NPO ITC中部会員/団塊の世代

私は会社勤めの企業内ITCですが、他に・独立系(コンサルタント)の方、・会計事務所の方、・官公関係の団体勤務の方々、などでNPO ITC中部は構成されています。会員の『ITC資格獲得と維持の目的』は、ITCの趣旨に添ったコンサルタント業務を展開する、・企業内ITCとしてITCの技術や手法を業務に活用する、・ITCの資格やITC中部のような組織を利用して、異業種間の人脈交流を図る、・定年後の仕事(コンサルタント)のために準備するなど、様々です。



和澤副理事長

また、その分野の専門家も多く、人材のレベルの高さは相当なものです。さらに、会員の中には『団塊の世代』といわれる、本当に力を持った多くの人も、定年となって自由な時間をもてるようになってきます。

人材のミスマッチ

他方、県や名古屋ソフトウェアセンターの支援などで、具体的な中小企業に何ってみますと、『IT化が大変遅れている、IT化の方法が判らない、人材がいない、経営効果まで成熟度を高めていない』といったところが、多いという事実があります。

ITC中部には、ITCの技術と経験を持ち、中小企業への支援に燃えている人々がせっかくながら、それを必要としている企業との間に大きなミスマッチが生じているわけです。

新たな企画へ皆さんの直接参加を

ITC中部は、会員の皆さんの力を、中小企業(社会)へ貢献できるように、両者のマッチングをしていくことも、大きな使命かと考えております。そのためには、ITC中部としての活動を多方面に渡って、今まで以上に活発化していくことが必要です。

今後ITC中部では、皆様の直接参加の企画を増やしていきたいと思っております。企業内ITCの方も、土日や夜のボランティア時間を抽出して頂き、ご参加頂きたいと思っております。また、組織面では企画委員会(仮称)といったものを設立し、それを中核に活動を展開していきたいと考えております。(まずは企画委員会へ参加からお願いします。)

ITC制度、ITC/ITC中部を本来の趣旨に添って定着・発展させ、中小企業を支援しながら、社会に貢献することに、皆様のご協力と積極的なご参加をお待ちしております。(問い合わせ/申し込みは事務局までお願いします。)

(ITC中部 副理事長 和澤功)

NPO・ITC中部広報誌第6号 平成18年3月30日 発行

発行: NPO・ITC中部広報委員会(〒460-0022 名古屋市中区金山五丁目11-6(NSC))

発行責任者: NPO・ITC中部 理事長 水口和美 編集責任者: NPO・ITC中部 広報委員長 日比政博

ホームページ(<http://www.itc-chubu.jp/>)

目次

和澤副理事長の挨拶 1

2005年日本国際博覧会・万博プロジェクト報告 2

平成17年度事業報告 3

ITC広島との交流会 3

ポイント委員会報告 4

広報委員会報告 4

事務局便り 4

2005年日本国際博覧会・万博プロジェクト報告

2005年3月25日に開幕した、2005年日本国際博覧会(愛・地球博)は大盛況の中おしまれて、2005年9月25日に閉幕いたしました。

私共、ITC中部の万博プロジェクトも約2年半の役割を無事終了いたしました。

正式には、2003年7月22日に財団法人2005年日本国際博覧会協会の坂本春生事務総長(当時)様から「ITアドバイザー」の委嘱をいただきはじまりました。

期間は、2004年3月31日まででITC中部から3名のITCが参加いたしました。

最初の取り組みは、博覧会における情報通信事業全般の調達フェーズの支援でした。

すでに、公開入札の業者からは提案がなされ大手通信業者のN社・K社と大手広告業者のD社のNKD連合体に業者選定がなされる直前に、万博プロジェクトが始動いたしました。

主に、情報通信事業に係る予算面についての精査をしましたが中々難しい作業でした。

それというのも、このような国際的で大型のイベントを現行のITや通信システムでおこなった実績がなく、提案する側も手探りでありRFPも要旨の全てを充たしていませんでした。

博覧会の情報通信化を目指す「業務要件」がなく、これが後々開発の首も絞められました。

そのような状況化でスタートした、情報通信事業は「設計・開発」フェーズに入ります。

私共の万博プロジェクトは、「情報通信システム事業における総合プロジェクト管理・監理」を担当し、博覧会の「業務要件」に見合った、情報コンテンツ・アプリケーション開発とネットワーク等の特に品質・SLA面に注力してこの大型のプロジェクトを協会側から支援遂行しました。正式には、2004年4月1日から2005年3月24日の契約でした。

この開発のフェーズでは、主に「業務要件」をめぐる様々な問題に直面しました。

現行のITプロジェクトである、「業務要件」をめぐる責任の擦り合い状態がそれです。協会側では、多数の意向者による運営のためになかなか「業務要件」が決まらないのです。また、業者側はその決まらない「業務要件」をひらすら待って開発が遅れていきます。代表的な出来事は、日経コンピュータ(7/11)に掲載された「愛知万博のコンテンツシステム、仕様確定が難航、総力戦で間に合わせる」という美談?が象徴的です。

これは、協会運営や来場者サービスのコンテンツを一元管理するシステムの開発でした。この情報総合管理システムは、「NP(ネオプラットフォーム)システム」と呼ばれていて、業者選定の提案プレゼンテーションでも、「目玉?」的なアピールがあったものでした。

本来なら、2004年9月には完成予定が?師走の12月時点でも開発の初期状態でした。この開発を請け負った某社は、プロジェクト破綻の際まで追い詰められている状況でした。最終的には、内覧会前日3月17日に完成という綱渡りでのシステム本稼働でした。このような、開発の遅れの中で総合テストも不十分のうちに運営フェーズに入りました。

私共の万博プロジェクトは、「情報通信システム事業の稼働運営に係る維持・管理業務」で情報センターや情報セキュリティ事務局の運営支援を185日間、8名で遂行しました。

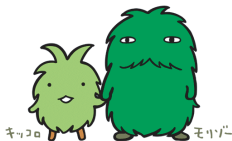
この間は、さまざまな問題や出来事がありました。が充実した日々であった事を報告します。私共の万博プロジェクトは、2年半の長きに渡り稼働してまいりましたが、これも皆様方の支援の賜物と感じております。また、コンテンツに応募の方には有難く御礼いたします。

最後に、この活動を通じて「ITC」の難しさをさまざまな場面で実感いたしました。しかし、また同時に「ITC」の存在性や必要価値も十分に感じた事は言うまでもありません。その為には、「ITC」が日々研鑽をして幅広い総合的な見識と胆識が絶対条件です。この経験をもとに、次にむけての飛躍を目指して万博プロジェクト報告いたします。

(ITC中部・万博プロジェクト・リーダー ITC中部副理事長 矢口隆明)



万博協会から表彰状の授与



平成17年度事業報告

本年度も皆様方のご協力により、数々の事業を実施する事が出来ました。また、NPO・ITC中部主催の事業以外に協働事業として関連組織様から数々の知識ポイントが提供できる事業を行なっていただく事が出来ました。これも、ひとえに皆様方のご協力の賜物と感謝しております。

- ・平成17年6月8日～10日(ビジネスウエーブ21)「IT経営応援隊フェアin名古屋」
- ・「中部IT経営応援隊ブースでのミニセミナー」
- ・平成17年7月22日 自主勉強会への支援テーマ決定(助成対象)
- ・平成17年10月8日～9日 ITC東海設立記念「PMBOKセミナー2005」 名古屋市中小企業情報化推進講演会
- ・平成17年10月18日 ITC東海設立記念「PMBOKセミナー2005」 名古屋市中小企業情報化推進講演会
- ・平成17年11月5日 「インターネット安全教室」(東海インターネット協議会)
- ・平成17年11月12日 ITC中部例会・講演会
- ・平成18年1月7日～2月18日 知識ポイント取得支援!合同自主勉強会
- ・平成18年3月25日 第2回定例総会&新ITCプロセスガイドライン勉強会



ITC中部例会・講演会風景



中部ITC経営応援隊ブースのミニセミナー

(ITC中部専務理事 江坂昭)

ITC広島との交流会

今回の交流会は広島ITC協同組合で、同組合の第3回総会の記念行事に参加しての交流です。当日の参加者は日比委員長以下8名でしたが、この交流会は広報委員会の諸活動の中でも重視されており、年々参加者が増えています。さて、広島ITC協同組合ですが、組合員は14名、ビジネス志向の組織で、自治体のシステム化ニーズをうまく取り込み順調に売上を伸ばしています(内容的には自治体がシステムを導入するときの調達指導、システム構築時の監理業務が中心のようです)。とかく難しいと言われる協同組合方式が広島で比較的うまく行っている、そのポイントは、次の点にあると感じました。①熟年(超60歳)のまとめ役と壮年(40代)の行動派(代表、副代表)が巧く組織化されている(役割分担)、②運営がオープンで公正に行われている(外部の我々にも事業内容、事業収支を全て公開してくれます)、③センスがよく行動的なメンバーが多い(パンフレット、名刺などもデザインが斬新)。こうした点ITC中部が学ぶべき点も多いというのが参加者皆の感想です。懇親会では広島銀行の方も参加し、ITC活動の将



広島ITC協同組合の第3回総会

来、広島の名物など話題の花が咲きました。なお、同総会では和澤副理事長が「中部地区のITC活動について」、池山が「ITCプロセス実践での気付き」と題した講演を行い、共に大変好評を博しました。

(ITC中部 池山昭夫)